

平成27年度決算がまとまりました

約2億円の赤字決算。 厳しい状況をのりきるために 健康づくりにご協力ください

7月12日に開催された第109回組合会において、平成27年度の決算が可決・承認されましたので、お知らせします。

保険給付費と納付金の増加などにより赤字決算に

当健保組合の27年度決算は、収入総額28億4087万円、支出総額27億6415万円、差引額7673万円となりましたが、経常収支においては2億535万円の赤字という結果で終わりました。

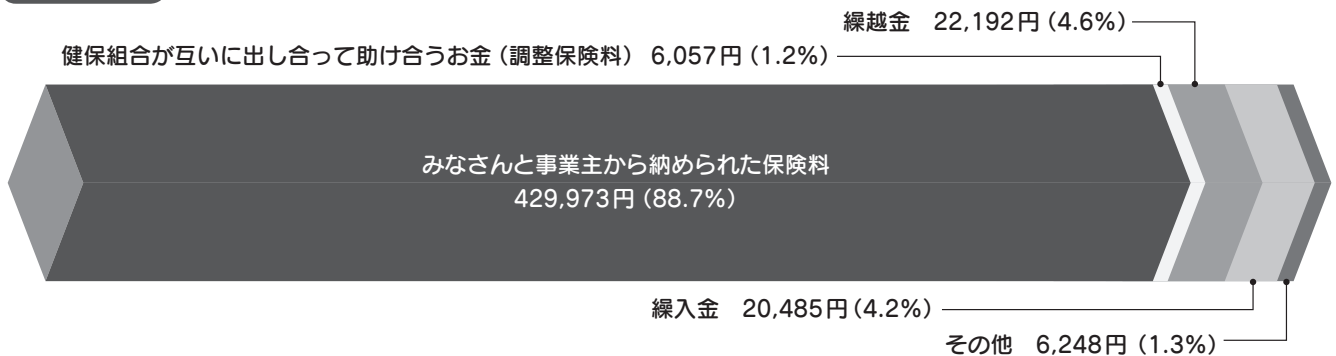
収入では、財源のほとんどを占める保険料収入が前年度に比べ6940万円減少し、25億1878万円となりました。

支出では、みなさんの医療費などにあてられた保険給付費が13億2400万円、同比2991万円増加です。前期高齢者納付金や後期高齢者支援金など、高齢者の医療費にあてられた納付金については、12億3631万円となり同比6831万円増加し、保険料収入の約半分を占めるほど重い負担となっています。

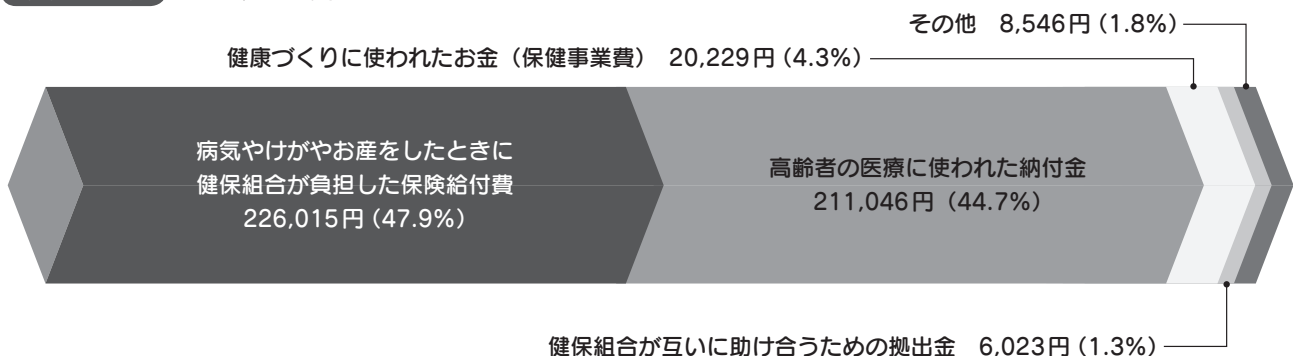
このほか、健診や契約保養所の利用補助などみなさんの健康づくりのサポートに使われた保健事業費が、前年度とほぼ同額の1億1850万

● 被保険者1人当たりでみた収支決算（健康保険） ●

収入合計 484,956円



支出合計 471,858円



※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります。

お知らせ

組合会議員の任期満了にともなう改選により、次の方が選任されました(大瀬戸 勝 議員は、6月17日選任)。
任期 自平成28年4月20日 至平成30年4月19日

■選定議員

(敬称略)

松岡 裕司	津山信用金庫	理事長
小林 啓治	健康保険組合	常務理事
村上 幸男	西中国信用金庫	理事
的場 章好	島根中央信用金庫	理事
光永 義則	広島みどり信用金庫	監事
大瀬戸 勝	一般社団法人 中国地区信用金庫協会	
大熊 龍彦	玉島信用金庫	
小田村 哲	萩山口信用金庫	
青砥 隆志	米子信用金庫	

■互選議員

(敬称略)

楨岡 敬人	呉信用金庫	理事
高森謙二郎	備前信用金庫	理事
嶋本 博	東山口信用金庫	理事
山本 泰弘	鳥取信用金庫	理事
平田 周志	吉備信用金庫	監事
出雲 智	しまなみ信用金庫	
柴倉 清	備北信用金庫	
郷中 和雄	西中国信用金庫	
小西 健一	しまね信用金庫	

平成27年度収支決算概要

◎健康保険

【収入】

科 目	決算額 (千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,518,784
健保組合が互いに出し合って助け合うお金 (調整保険料)	35,483
繰 越 金	130,000
繰 入 金	120,000
そ の 他	36,603
合 計	2,840,870

【支出】

科 目	決算額 (千円)
病気やけがやお産をしたときに 健保組合が負担した保険給付費	1,323,996
高齢者の医療に使われた納付金	1,236,308
健康づくりに使われたお金 (保健事業費)	118,499
健保組合が互いに助け合うための拠出金	35,280
そ の 他	50,062
合 計	2,764,145

◎介護保険

【収入】

科 目	決算額 (千円)
みなさん*と事業主から納められた 介護保険料	260,390
繰 越 金 等	12,060
合 計	272,450

【支出】

科 目	決算額 (千円)
国に納める介護納付金	263,595
介護保険料還付金	53
合 計	263,648

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

円となりました。
以上の結果、保険料収入は減少の一方、保険給付費と納付金が増えたことによって収入だけでは支出をまかないきれなかったため、積立金からの繰り入れ1億2000万円などで収入不足分に対応しなければなりませんでした。

納付金負担でますます 追いつめられる健保組合財政

当健保組合の財政は長年にわたってひっ迫しており、8年連続の赤字決算となっています。赤字となった

おもな要因は、高齢者医療制度への納付金負担にあります。これは法律で定められた制度であり、健保組合に加入している人数や高齢者の加入率、財政状況などに応じて負担額が決まります。そのため、健保組合の自助努力によって、その額を大きく減らすことはほとんどできません。

こうした事態を打開しようと、健保組合は国に対し、かねてより高齢者医療制度への公費負担の拡充など医療保険制度の抜本的改革を求めているものの、未だ実現にはいたっ

ておらず、現在のような厳しい情勢は今後も続くことが予想されています。
このような状況をのりきるため、当健保組合は、引き続き事業の効率化を図り、医療費適正化を進めていくことで、財政の健全な維持に努めてまいり所存です。そして、みなさんの健康づくりを支える保健事業は今後も積極的に実施いたしますので、各種事業をご活用いただき、毎日を元氣にお過ごしください。また、もう、お願いいたします。